

確認試験結果報告書

(第四類・可燃性液体類)

住所
会社名
氏名

印

物品名					
製造会社 又は 輸入会社	住所 名称				Tel FAX
組成	全成分（化学名）及びそれぞれの含有率（重量%）				
試験結果	引火点	タグ密閉式 クリーブランド開放式 セタ密閉式			°C °C °C
	動粘度	°Cにおいて		cSt・KU	
	燃焼点	°C	可燃性液体量	重量%	
	沸点	°C	発火点	°C	
	液状確認	液状確認 °C 秒		液状である 液状でない	
	°Cで容器間の移替えが容易に可				
品名 (○印)	第四類 _____ (水溶性液体・非水溶性液体) 指定可燃物（可燃性液体類） 非危険物				
その他	用途： 連絡担当者		Tel FAX		
備考					

注) 必要事項を記入し、該当する項目を○で囲むこと。

(A 4)

試験名	引火点測定試験				
試験実施日	年 月 日				
試験場所					
試験実施者					
試験条件	温度 (°C)	湿度 (%)	気圧 (hPa)		
試験物品名					
試験結果	タグ密閉式	1 回目	設定温度 (°C)	測定値 (°C)	
		2 回目	設定温度 (°C)	測定値 (°C)	
		平均値 (°C)		補正值 (°C)	
	クリーブランド開放式	1 回目	設定温度 (°C)	測定値 (°C)	
		2 回目	設定温度 (°C)	測定値 (°C)	
		平均値 (°C)		補正值 (°C)	
セタ密閉式	1 回目	°C			
	2 回目	°C			
	平均値 (°C)		補正值 (°C)		
果動粘度	測定方法	B型回転粘度計・その他 ()			
	測定温度	°C			
	1 回目 (cSt)	2 回目 (cSt)	平均値 (cSt)		
備考					

注1) 引火点及び動粘度について、2回を超えて実施した結果は別紙

注2) 補正值とは、引火点測定時の気圧による大気圧補正值

注3) 引火点が測定できない場合には、その理由を備考欄に記入すること。

注4) 2種類以上の引火点測定を実施した場合において、試験実施日、試験実施場所、試験実施者又は試験条件が異なるときは試験データを別葉とすること。

試験名	燃焼点測定			
測定器具	タグ開放式引火点測定器			
試験実施日	年 月 日			
試験場所				
試験実施者				
試験条件	温度 (°C)	湿度 (%)	気圧 (hPa)	
試験物品名				
測定結果	1回目	2回目	3回目	平均値
	°C	°C	°C	°C

注) 3回を超える測定結果は別紙

試験名	発火点測定		
測定方法	ASTM E659・その他 ()		
試験実施日	年 月 日		
試験場所			
試験実施者			
試験条件	温度 (°C)	湿度 (%)	気圧 (hPa)
試験物品名			
測定結果	°C		

試験名	沸点測定		
測定方法	JIS K2233・その他 ()		
試験実施日	年 月 日		
試験場所			
試験実施者			
試験条件	温度 (°C)	湿度 (%)	気圧 (hPa)
試験物品名			
測定結果	°C		

注) 引火点が-20°C以下である場合に測定すること。

試験名	可燃性液体量測定		
試験実施日	年 月 日		
試験場所			
試験実施者			
試験条件	温度 (°C)	湿度 (%)	気圧 (hPa)
試験物品名			
測定結果		引火点100°C未満	引火点100°C以上
	揮発成分の含有率	測定方法 (%)	測定方法 (%)
	水分の含有率	測定方法 (%)	
	不燃性溶剤の含有率	測定方法 (%)	測定方法 (%)
	可燃性液体の含有率	%	%
可燃性液体量	%		

注) 可燃性液体量の測定は、組成が不明な物品について行うものであること。組成が明らかな物品については、当該物品を構成する成分のうち、第4類の危険物に該当するものの含有率を合算したものを可燃性液体量とすること。

試験名	液状確認
試験実施日	年 月 日
試験場所	
試験実施者	
試験条件	温度 (°C) 湿度 (%) 気圧 (hPa)
試験物品名	
恒温槽の温度	°C
確認結果	秒

別添 2

平成 年 月 日

危険物データベース登録確認書

危険物保安技術協会 印

1 登 録 番 号			
2 登 録 物 品 名			
3 登 録 者 名			
4 類 ・ 品 名 ・ 性 質			
5 状 態		6 引 火 点	

様式のサイズはA5とする。